



梅雨が明け、だんだんと暑くなってきましたね💧

今回は、夏に注意してほしい**熱中症**についてお話しします。



熱中症とは？

体温が異常に上昇し、体内の調節機能ができなくなる状態のことです。
犬や猫は、人間と比べてあまり汗をかかないため、**体温調節が苦手**です。
重症化すると**命にかかわる**こともあります…

熱中症の原因（人間、犬、猫）

- ・ 蒸し暑い日が続き、気温と湿度が共に高い
- ・ 体温調節機能の低下
- ・ 水分補給の不足
- ・ 激しい運動



◎こんな特徴がある犬・猫はなりやすい◎

- ・ 短頭種
- ・ 長毛種
- ・ 肥満
- ・ 持病がある



- ・ 毛色が黒い
- ・ 子犬、子猫
- ・ シニア犬、シニア猫



熱中症の症状（犬、猫）

- ・ ハアハアした呼吸
- ・ 元気がない
- ・ ぼーっとしている
- ・ 体温が上がる（40度以上）
- ・ 頻脈（心拍数の増加）
- ・ よだれがでる
- ・ 身体がふらふらする
- ・ 歯肉が赤くなる
- ・ 目が充血する

重症化すると・・・

- ・ 嘔吐
- ・ 下痢
- ・ ぐったりして舌が横から出ている
- ・ チアノーゼ（舌の色が紫になる）
- ・ けいれんを起こす
- ・ 心拍数が低下して血圧が下がり、呼吸困難になる

熱中症の応急処置（犬、猫）

- ・ 濡れたタオルや保冷剤などで**首、脇の下、太ももの付け根を中心に**身体を冷やし体温を下げる。**（冷やしすぎに注意）**
- ・ 全身を常温の水で濡らす。
- ・ 風通しの良い日陰やエアコンがきいた涼しい室内に移動させる。
- ・ 意識がある場合は水を少量ずつ飲ませる。
- ・ 意識がない場合は無理に与えない。**（窒息する危険がある）**

動物も人間と同じで、熱中症になりやすく怖い病気です。
真夏に限らず、室外でも室内でも熱中症になることはあります。

もし熱中症になってしまったら素早く応急処置を行い、
動物病院に連れて行きましょう。時間との勝負です。

処置が早ければ早いほど動物の命を救えます！

私たち人間も熱中症にならないように気をつけましょう。

